

Monthly Report

第16回健康福祉研究会を開催／パラ女子車いすバスケの岩佐義明コーチが講演



2021年東京パラリンピックや車いすバスケットボールの魅力を紹介頂いた岩佐義明氏（写真上）

健康福祉学科は2月11日(金)に「第16回健康福祉研究会」を開催しました。

本研究会は、健康福祉学科（平成7年開設）の卒業生、在學生、教員、関係者が顔を合わせ、健康福祉に関して議論・交流を深める場で、今年で16回目の開催となりました。

今回は「パラスポーツを“する・みる・ささえる”」をテーマに、健康福祉学科が培ってきた体育・スポーツ科学を通じたハンディの克服や特別支援教育への貢献について、現場の生の声を聴き、考察を深めました。

基調講演1では、2021年東京パラリンピックで車いすバスケットボール日本代表女子ヘッドコーチを務められた岩佐義明氏（本学体育学科10回生、日本車いすバスケットボール協会所属）から、車いすバスケットボールの実際・醍醐味、東京パラリンピックの決戦等について熱くお話を頂き、基調講演2では、本学の小西志津夫准教授が「宮城県の特別支援学校におけるスポーツ活動」について、最新の調査に基づく実態と自身の教員としての経験を報告しました。

続くミニ・シンポジウムでは、現役教員等として活躍中の卒業生から活発な質問や意見が出されるなど、白熱した議論がおこなわれました。

終了後には参加者から「仙台大学在学中に障がい者スポーツサポートのサークルでの経験も思い出し、大変参考になった（卒業生）」、「ブラインドマラソンを機会があればやってみたいと思った（在學生）」などの感想が寄せられました。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響からオンラインで実施し、全国から卒業生や一般の方も含め80名以上の方に参加して頂きました。

<健康福祉学科>

< 目 次 >

・第16回健康福祉研究会を開催／パラ女子車いすバスケの岩佐義明コーチが講演	1
・教職員研修会「大学生の生きる世界—学生相談から見えるもの—」開催 ・学生ボランティア「ボラリス」に対して感謝状	2
・男子バレーボール部の岩崎航佑がサフィールヴァ北海道（V2）に内定しました ・施設からスポーツを支える	3
・宮城セキスイハイムスーパーアリーナ（グランディ・21）施設見学会報告	4
・泉パークタウンゴルフ倶楽部施設見学会が開催されました	5
・芝草通信 NO. 34	6
	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 46	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

教職員研修会「大学生の生きる世界—学生相談から見えるもの—」開催

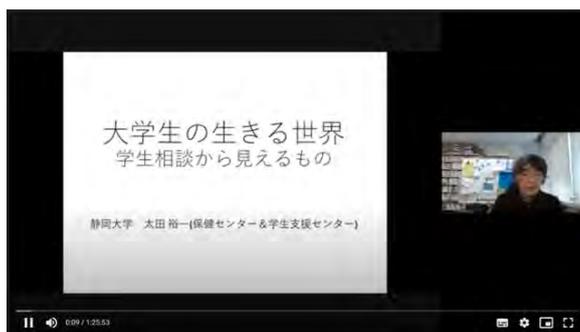
令和4年1月18日（火）13時30分より、仙台大学学生相談室・修学サポート委員会共催による教職員研修会を開催しました。今年度の研修会では、静岡大学保健センター&学生支援センター准教授の太田裕一先生を講師にお招きし、「大学生の生きる世界—学生相談から見えるもの—」と題してご講演いただきました。昨年度と同様、感染症拡大防止のため、オンライン形式で開催し、多くの教職員に参加いただきました。

太田先生は長きにわたり学生相談に携わっており、若者文化にも造詣の深いことから、講演ではデジタル・ネイティブ世代と言われる今の大学生の心性の理解やコミュニケーションのとり方についてご教授いただきました。加えて、研修会に先立って実施した教職員アンケートの質問にも回答いただきました。

講演前半では、日本経済の低迷や第4次産業革命、高等教育のユニバーサル化などの社会変化の影響、インターネットのかなえる「リモート」や「バーチャル」が変える対人関係の在り方という切り口から、現代の大学生の特徴を解説していただきました。近年の大学生の傾向として、周囲からの援助が必要な状況であっても自ら手を伸ばせない者が多いため、学生に「助けを求めることが大切なのだ」と伝えていくこと、大人は学生と細くても繋がりを持ち続けていくことが重要だと分かりました。後半では、事前アンケートで挙げられた質問へ回答いただきました。学生と関わる中で実際に起きている問題に関する質問に、具体的な対応をご教授いただきました。

質疑応答では、参加者から講師へ多数の質問が寄せられました。日頃、教職員の皆様が学生へのより良い関わり方を模索し、その関りが適切だったかどうかの自己点検を重ねている様子が想像されました。普段はなかなか表に出ませんが、教職員の皆様が日頃から熱心に学生のサポートにあたられていることを知る機会にもなりました。研修会後のアンケートでは、「コロナ禍で学生との関係がリモートとなるが増える中、どのような対応を教職員が求められているか理解できた」、「学生の興味・関心事などを把握することの大切さを感じた」などご意見が寄せられ、学生との関わり方について貴重な示唆が得られた機会となりました。

<学生相談室・修学サポート委員会>



オンライン研修会の画面より

学生ボランティア「ポラリス」に対して感謝状



令和4年2月15日 ポラリス感謝状授与の報告



令和3年10月12日 全国地域安全運動キャンペーンでの学生V0の様子

1月21日、大河原警察署長より、学生ボランティア「ポラリス」の活動に対し感謝状を頂き、コロナ禍の中、最後まで強い責任感と使命感をもって活動に参加した、現代武道学科3年の太田千尋さんが代表して高橋学長に報告しました。

「ポラリス」は、本学を含む県内7大学の学生と警察職署員や少年警察ボランティアが「青少年の健全育成を推進する」目的で「ポラリス宮城」として活動しています。

本学からは8名の学生が登録し、大河原警察署と連携しながら、仙南地域のスーパーや道の駅で地域安全運動キャンペーンの実施や、指人形を使った防犯教室の社会参加活動等を行いました。

太田さんは、「私は人の役に立てればという想いで、大学入学後からボランティア活動を継続しています。その中でもポラリスは、地域社会に貢献できるとてもやりがいのあるボランティア活動です」と話しています。

今後も、学生支援センターでは大河原署や地域と連携を図りながら仙台大学「ながら見守り隊」と共にこども達に寄り添い、少年たちの道標となるようボランティア活動に取り組んでいきたいと思ひます。

<学生支援センター>

男子バレーボール部の岩崎航佑がサフィールヴァ北海道（V2）に内定しました

男子バレーボール部の岩崎航佑（体育学科4年）が、サフィールヴァ北海道（バレーボール男子Vリーグ Division2）に入団することが内定しました。

これで通算9人目のVリーガー輩出となります。



【岩崎航佑（いわさき こうすけ）選手プロフィール】

- ポジション：ミドルブロッカー
- 生年月日：1999年7月20日（22歳）
- 身長/体重：194cm/74kg
- 出身：北海道札幌市（北海道科学大学高校出身）

【岩崎航佑選手のコメント】

私の地元である札幌を拠点としているサフィールヴァ北海道でプレーできることを大変嬉しく思います。バレーボールを続けられることに感謝の気持ちを忘れず、チームや応援してくださる方々の為にも努力を怠らず、頑張ります。

初寄稿シリーズ

施設からスポーツを支える

助教 野口 翔（2021年4月 着任）

皆様、初めまして本年度より運動栄養学科助教となりました野口翔と申します。本学には、2016年に「芝生管理」の新助手として採用され、今年度からは教員として、「芝生管理」に加え、「スポーツ施設管理士」資格認定試験関連の講義や、生化学、生化学実験といった運動栄養学科の講義科目に携わらせていただいております。

私の専門は植物生態学で学生時代は里山の植生調査（主に、希少植物の個体調査やヤマザクラという桜の野生種の個体調査）などをしておりましたが、本学ではスポーツ・運動に関連して、競技表層である天然芝生が人体に与える影響や、スポーツターフにおける維持管理の手法などの研究を行っています。また、教育では「芝生管理」のような農学的な視点や「スポーツ施設管理士」に関連した施設管理の視点から、スポーツを多角的に捉えることができる人材を育成し、学生の資質向上の一助になればと考えています。至らない点も多々あるかと思いますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



写真1 天然芝グラウンド



写真2 第二グラウンド天然芝刈込の様子

宮城セキスイハイムスーパーアリーナ（グランディ・21）施設見学会報告

令和3年11月7日（日）と12月4日（土）にグランディ・21（みやぎ国体会場）において「スポーツ施設管理概論ⅠおよびⅡ」の授業の一環として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、講義で得た知識の総復習として現地において、実際の施設や維持管理器具類などを見学し、維持管理の機微を体得することです。宮城セキスイハイムスーパーアリーナは2001年のみやぎ国体の開会式・閉会式の会場となるほかに、総合運動公園としてプール（長尺50m公認、短尺25m公認）、サブプール（25m公認）、飛込プール（公認）、メインアリーナ、サブアリーナ、投てき場、スタジアム（第1種公認陸上競技場）、補助競技場（第3種公認）、テニスコート、合宿所、など各種競技場が県民の森（410ha）の東側に隣接した146haの広い敷地に点在してあります。

担当の野口翔助教と小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、11月7日に31名、12月4日に17名の学生が参加しました。

仙台大学OBの職員が隣接のしらかし台団地にある県営サッカー場の天然芝生サッカー場2面ロングパイル人工芝生サッカー場1面や宮城セキスイハイムスーパーアリーナの各種施設を懇切丁寧に案内と解説をして頂きました。見学をしながら、実物の大きさ、方角、位置、高さなどの理想形を検証しました。午後は2002年のサッカーワールドカップの試合も開催されたスタジアム（陸上競技場兼用）を見学し、ビッグ大会を開催する会場の規模の大きさを実感しました。普段入ることの出来ない施設維持管理の裏側を見学し、大きな競技会を運営することの大変さも体感しました。



<写真2>6階客席最上階の上の通常立ち入り禁止区域で解説を聞く



<写真3>3Fの客席にて説明を聞く



<写真4>陸上競技場インフィールド内のサッカー場天然芝生（遠景）



<写真5>芝生生育状態（接写）

（2月22日記）

泉パークタウンゴルフ倶楽部施設見学会が開催されました

令和3年11月6日（土）と11月13日（土）に泉パークタウンゴルフ倶楽部において「スポーツターフ管理概論Ⅰ」の授業の一環として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、講義で得た知識の総復習として現地において実際の施設や維持管理機械・道具類などを見学して、維持管理の機微を体得することです。泉パークタウンゴルフ倶楽部は県内でも有数のゴルフ場で130万㎡の広大な緑の丘陵にゆったりとレイアウトされた18ホールを持つグレードが高く維持管理も優れている施設です。

担当の野口翔助教と小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、11月6日に13名、11月13日に28名の学生が参加しました。

このゴルフ場がある泉パークタウンには、住宅をはじめ商業施設、事業所、スポーツ、レクリエーション施設、緑あふれる公園、緑地がバランス良く配置され、それぞれが調和し合う独自のマスタープランが描かれています。住民自らがまちづくりに参加して一緒に街を成長させていく理念が掲げられており、この理念のもと行われるコミュニティ活動が街の価値を維持・向上させ、成熟を深めています。

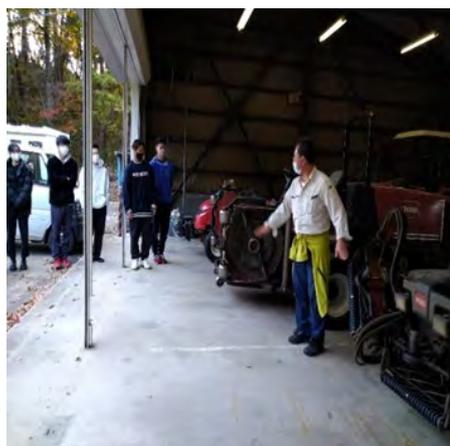
施設管理を学ぶ学生は、このような理念を理解し、大規模施設に在るゴルフ場の役割を理解してください。



＜写真1＞バンカー造成の解説、形状はグリーンと同様に直線を用いず曲線で描かれており、大きな円と小さな円を結ぶ接線に沿って造成されている。



＜写真2＞ NO.10 ティーグラウンド
ヤード表示板を抜きコースの説明



＜写真3＞管理機械の説明



(2月22

＜写真4＞大量散布用タンク車
機械が入れない部分もホースで散布
濃度を薄くして大量の水量で散布



日記)

＜写真5＞少量散布用タンク車
ブームが開き車幅の3倍に散布
濃度を濃くして少量の水量で散布

第二グラウンド芝生（暖地型・寒地型芝生）に除草剤（茎葉処理型フルスロット）散布実験の状況

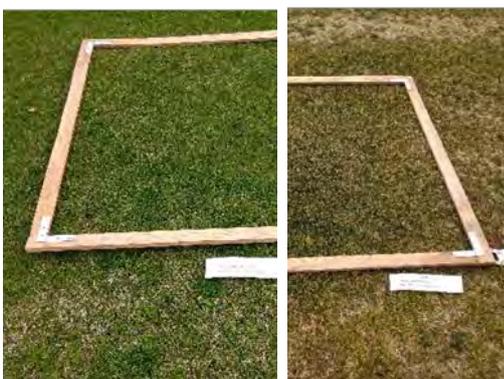
スズメノカタビラは一年草冬雑草（越年草）で繁殖力が強く生長点を自由におのずから調節して草刈り高さに逆らって、すぐ下で出穂して生育します。そのために草刈りを頻繁に行ってもなかなか阻害することが困難です。イネ科植物で芝生に用いる芝草と同じ姿形のために世界ではスズメノカタビラが混植しているスポーツターフがよく見られます。日本ではターフの草刈り高さの下で出穂する穂の色が目障りであることから雑草として分けられます。出穂抑制剤を使用して同じ種類のイネ科である芝草と混植して用いることもあります。今回の実験はペレニアルライグラスとトールフェスクに対して除草剤（茎葉処理型フルスロット）を散布して隣接の無処理区と比較をしました。



＜写真1＞ 左、対照区a、右、試験区A、 遠景
 除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
 寒地型芝生：ペレニアルライグラス



＜写真2＞ A区 近景、散布直後、右、3か月後
 除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
 寒地型芝生：ペレニアルライグラス



＜写真3＞ a区 近景 散布直後、右、3か月後
 対 照 区：無散布 通常管理
 寒地型芝生：ペレニアルライグラス



＜写真4＞ A区 接写 散布直後、右、3か月後
 除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
 寒地型芝生：ペレニアルライグラス

＜写真1＞から＜写真4＞は寒地型芝生ペレニアルライグラスに対して除草剤茎葉処理型フルスロットを散布した状態です。左側対照区a区は無散布で、右側＜試験区A＞にフルスロットを散布しました。この薬剤は茎葉から除草剤が吸い込まれて葉先から枯れだし、根茎まで到達します。バミューダグラス（暖地型芝草）には効果なく寒地型雑草スズメノカタビラには効果が発揮される除草剤です。バミューダグラスは冬季休眠状態で葉先は生育が鈍く黄変しています。散布直後（11月8日）の＜写真1＞を見ると薄く黄変したバミューダグラスの上に寒地型ペレニアルライグラスとスズメノカタビラの緑の葉先が見られます。近景＜写真2＞と接写＜写真4＞を見ると左側の散布直後には雑草スズメノカタビラの緑色が目立ち、3か月後の右側の写真には緑色が消えて休眠状態のバミューダグラスの黄変した葉先が見られます。ペレニアルライグラスは保護されることになっていますが、少し影響も出ているようです。

＜写真5＞から＜写真8＞は寒地型芝生トールフェスクに対して除草剤茎葉処理型フルスロットを散布した状態です。観察状況はペレニアルライグラスとほとんど同じです。同じような効果が有ったと思います。



＜写真5＞左、対照区b、右、試験区B、 遠景
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：トールフェスク



＜写真6＞B区 近景、散布直後、右、3か月後
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：トールフェスク



＜写真7＞ b区 近景 散布直後、右、3か月後
対 照 区：無散布 通常管理
寒地型芝生：トールフェスク



＜写真8＞ B区 接写 散布直後、右、3か月後
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：トールフェスク

(2022. 02. 22 記)

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 46

新助手 佐藤 章人

今年の1月より川平ATルームに配属された佐藤章人です。私は本学の体育学科トレーナーコースの卒業生で、在学中はアスレティックトレーナー部に所属し、知識は授業で、実践は部活動で経験を積んできました。その甲斐あって現役で筆記試験に合格し、現在はJSP0-AT（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）の資格を有しております。

中学生の頃に選手を支え、鍛えるスポーツトレーナーの道に憧れを抱きました。東北で唯一の体育系大学であった仙台大学でトレーナーについて学べると知り進学を決め、大学では4年間AT漬けの生活を送っていました。大学入学以前は、漠然とスポーツトレーナーという職に対し格好いいというイメージを抱いており、ATという職業がどのような活動を行っているのか知るのは入学後でした。正直ATの活動を目の当たりにした第一印象は「結構地味な仕事だな」というものでした。しかし、私自身が選手に触れ、傷害を評価し、問題点を見つけ出し、必要に応じてトレーニングを実施し、選手が練習に復帰し最終的には試合で結果を残す様子を何度も見る中で、ATの面白さを実感していきました。アスリートの体をこんなにも理解し、様々な観点からアプローチをかけ、最終的には競技力向上に持っていく仕事はなかなかないと感じ、ATの魅力にどっぷり浸かっていきました。

大学卒業後は更なる知識の向上やJSP0-ATの発展の為、中国の上海体育学院に進学を決めました。運動康复专业（スポーツリハビリテーション学科）で勉学に励んでおりました。しかし、日本に一時帰国している間に新型コロナウイルスが流行し、現在は休学中です。日本にいる間にATとしての知識や技術を維持・向上させる為に、川平ATルームにて実践の場を提供していただきました。

高校生は身体的にも精神的にもまだまだ未熟な時期だと思います。その為、私たちのように間近にいる大人の一挙手一投足が大きな影響を与えます。高校生の内はもちろん、高校卒業後もスポーツを続けていく生徒は多いはずですが、私はそのような高校生をサポートするだけでなく、自分たちの体を知るキッカケを与え、痛みとの付き合い方や体を大事にする方法を学んでもらいたいと考えています。さらに、ATの一番の強みは現場での応急処置や緊急時対応にあると考えています。リハビリやコンディショニングももちろん重要な仕事ですが、事故を予防し、万が一発生した際に即座に対応できるように日々備えておくことが、私の思うATの在り方だと考えています。未だに高校部活動中に生命にかかわる重大事故は発生しています。指導者でも救急法を学んでいない方が多くいるのが現状です。何よりも生徒たちが安心安全に部活動に取り組んでいける環境づくりを高校ATとして徹底していきたいと考えています。まだまだATとしての実務経験は浅いですが、日々精進していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

高校生は身体的にも精神的にもまだまだ未熟な時期だと思います。その為、私たちのように間近にいる大人の一挙手一投足が大きな影響を与えます。高校生の内はもちろん、高校卒業後もスポーツを続けていく生徒は多いはずですが、私はそのような高校生をサポートするだけでなく、自分たちの体を知るキッカケを与え、痛みとの付き合い方や体を大事にする方法を学んでもらいたいと考えています。さらに、ATの一番の強みは現場での応急処置や緊急時対応にあると考えています。リハビリやコンディショニングももちろん重要な仕事ですが、事故を予防し、万が一発生した際に即座に対応できるように日々備えておくことが、私の思うATの在り方だと考えています。未だに高校部活動中に生命にかかわる重大事故は発生しています。指導者でも救急法を学んでいない方が多くいるのが現状です。何よりも生徒たちが安心安全に部活動に取り組んでいける環境づくりを高校ATとして徹底していきたいと考えています。まだまだATとしての実務経験は浅いですが、日々精進していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

